

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第1部・第2部特別課程第49期）

北海道札幌市 市民文化局市民自治推進課 下宮 明子

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1 はじめに

自治大学校を卒業して早くも1か月半。ふとした瞬間に、仲間との談笑や演習風景がよみがえります。公務員としてこれほど意識が変わるような学びと経験は、他では得られない貴重なものでした。ここでは改めて、濃密だった約4週間の研修生活を振り返りたいと思います。

2 入校前の準備

第1部・第2部特別課程は、女性職員を対象とした短期集中型の研修であり、入校決定と同時に様々な準備が始まります。

私の場合は、「地方自治制度」「地方公務員制度」といった法制課程のeラーニング（約50時間）のほか、演習テキストの確認、事前課題の提出、そして最大の難関である特定政策課題レポートの資料集めを進めました。また、入寮前には日用品の準備も欠かせません。

日常業務と並行しながらこれらを進めるのは、正直大変な面もありましたが、「事前準備が研修を支える」とこの本課程OGからのアドバイスと職場の温かい協力のおかげで、準備を整え入寮日を迎えることができました。

3 研修課目

北海道から沖縄まで総勢78名の研修生が集い、研修がスタートしました。

本課程は、「講義」「事例演習・ディベート型演習」「特定政策課題レポート」の3本柱で構成されています。

(1) 講義

講義では、公共政策、行政経営、デジタル化やDXなど、地方自治体を取り巻く幅広い分野について、第一人者の講師陣から、直接指導を受けることができました。

どの講師からも、人口減少時代の行政経営のあり方や、DX、EBPM推進、公共私連携の重要性が繰り返し語られたことが印象的でした。

これらの講義を通じて、単に知識を得るだけではなく、10年後、20年後の自治体の姿、行政の持続可能性を考える視点を身に着けることができましたと感じます。

(2) 事例演習・ディベート型演習

研修の中でも特に印象深いのは、グループで取り組む事例演習とディベート型演習です。

事例演習では、子ども政策や地域交通のあり方といった地方自治体が直面する課題について、事前に準備した各自治体の取組みを持ち寄り、討議を重ねました。県や市町、規模も課題も異なる研修生が集まり、それぞれの立場から活発な意見を出し合うことで、多角的に課題を分析し、実践的な解決策を導き出す力を養うことができました。

また、ディベート型演習では、演習班別に論題と「肯定」又は「否定」の立場が割り当てられます。私の班では、「地方公共団体は、町内会の役員などの地域活動に積極的に取り組む職員の人事評価を加点すべき」という論題に「肯定」の立場から取り組みました。

準備段階では、主張を裏付ける論拠を集め、論理構成を話し合い、討論本番では、相手の主張を的確に捉え、論理的に応答する力が求められました。限られた時間で論点を整理し、分かりやすく

伝える能力は、市民説明や議会対応でも大切であり、今後も磨いていきたいと思います。

(3) 特定政策課題レポート

本課程最大の課題であり、最も労力を費やしたのが「特定政策課題レポート」です。5つのテーマ（例：地域防災、自治体DX など）の中から一つを選択し、8,000字から12,000字の論文形式で、所属自治体の課題と政策提言をまとめます。

研修前から準備を始めていましたが、研修中も講義の合間や夜間に図書室で資料を探し、締め切りまで作成に追われました。夜中までPCと向き合う日々は大変でしたが、外部指導教官による中間指導を経て完成させた時の達成感は格別なものでした。

4 寮生活と交流

全国各地の研修生と寝食を共にする寮生活は、研修課目に勝るとも劣らない最高の学びとなりました。様々な自治体規模や職種（事務、保健師、土木など）の職員が一同に会する機会は、他に類を見ません。寮の共有スペースである談話室は、まさに全国の地方自治体の「縮図」でした。

夜になると、次々と届く各地の銘酒や名産品を囲みながら、職員採用の問題、マネジメントの悩み、生成AI活用術などについて本音で語り合い、時には研修生の誕生パーティーを開いたり、週末には、連れ立って鎌倉や高尾山に足を延ばしたりなど、公私にわたる交流を楽しみました。

異なる自治体の「当たり前」に触れることは、地元の魅力や課題を客観的に見つめる視点を与えてくれました。そして、研修生の地元愛や仕事への姿勢から大きな刺激を受け、自分の視野がいかに狭かったかを実感し、地元をもっと知り、伝えられるようになりたいと意識するようになりました。

互いに支えあう仲間がいればこそ、課題の締め切りに追われる日々を乗り越えることができま

した。入寮前の不安は、充実した毎日の中で嘘のように消え、卒業式では研修生活を名残惜しく思うあまり、思わず目頭が熱くなりました。この仲間とのつながりは何物にも代えがたい財産です。

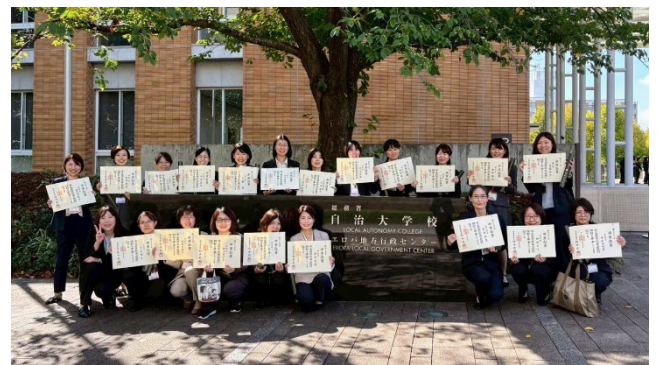
5 おわりに

この研修は、凝り固まりがちだった視野を広げ、自身のキャリアを見つめなおす貴重な機会を与えてくれました。

もし研修参加に二の足を踏んでいる方がいれば、ぜひ参加をしてみてください。この研修だからこそ得られる経験があります。

日々の業務は楽しいことばかりではありません。辛いこと、悩むこともあります。共に学んだ研修生が今日も地元で頑張っているということが、とても心強い励みとなっています。

最後になりますが、自治大学校の校長先生をはじめ講師と職員の皆様、研修参加を快諾し業務をフォローしてくださった上司と同僚、家族、そして研修生同期に心から感謝しています。ありがとうございました。



▲卒業式 麗澤寮2階メンバー